

「つや姫」・「にこまる」の収穫時期と収量・品質

農業試験場 主査研究員 岩橋良典

背景・ねらい

「つや姫」は和歌山県では2008年から試験を行ってきた極早生の良食味品種で、「にこまる」は和歌山県では2011年から試験を行ってきた晩生の良食味品種です。
これらの品種は2017年2月に和歌山県水稻奨励品種に採用されが県内での栽培方法は十分に明らかでなく適切な栽培技術の開発が求められています。
ここでは刈取り時期と収量や品質について調査し、高品質に収穫できる収穫適期を検討しました。

試験概要

- ・ 2017年6月5日稚苗機械移植
- ・ 条間30cm×株間18cm(18.5株/㎡)
- ・ 供試品種:「つや姫」「にこまる」
- ・ 施肥量:全量基肥 緩効性肥料で窒素成分8ka/10a
- ・ 調査方法:50株×2区を刈取り、調査を行った



つや姫



にこまる

試験結果

つや姫

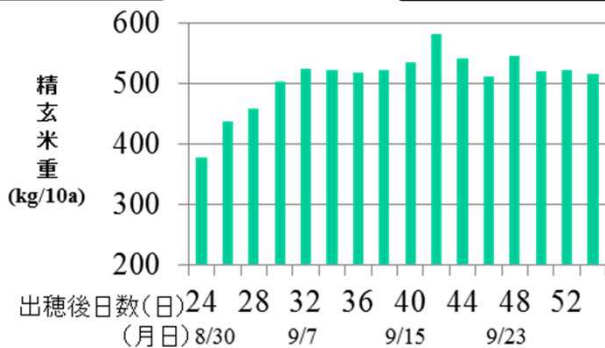


図1 収穫時期が収量に及ぼす影響

出穂後30日までの刈取りでは精玄米重は軽かった。また、出穂後32日以降になるとこれらの値に大きな変化は認められなかった。

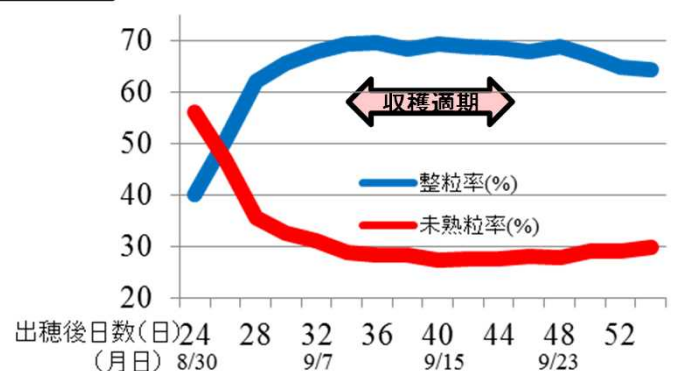


図2 収穫時期が品質に及ぼす影響

32日までは未熟粒率が高く、整粒率が低かった。出穂後34日から50日の間の刈取りでは整粒率は概ね70%近くとなった。

にこまる

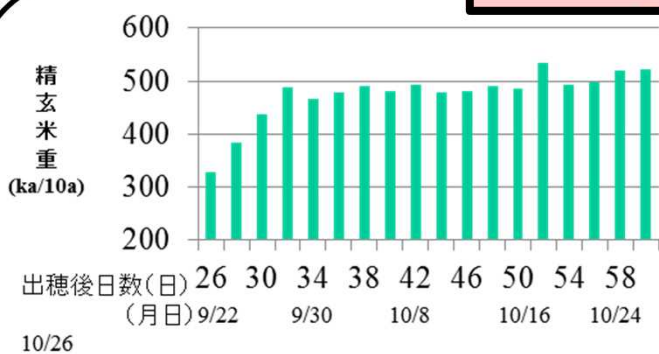


図3 収穫時期が収量に及ぼす影響

出穂後30日までの刈取りでは精玄米重は軽かった。また、出穂後36日以降になるとこれらの値に大きな変化は認められなかった。

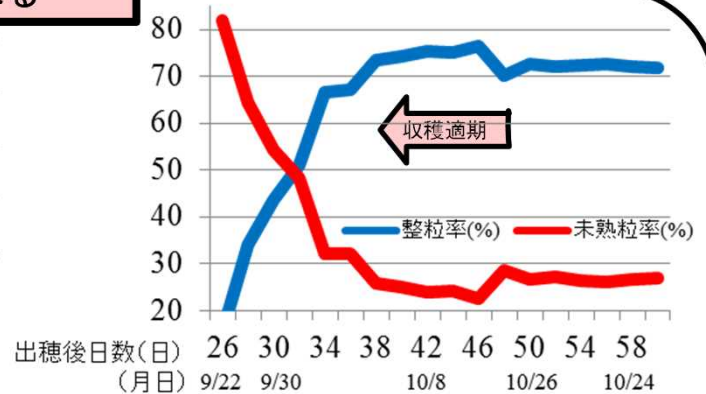


図4 収穫時期が品質に及ぼす影響

36日までは未熟粒率が高く、整粒率が低かった。出穂後38日以降の刈取りでは整粒率が70%以上となった。

結果の要約

「つや姫」:6月5日移植で収穫適期は整粒率から出穂後34日から44日の間と考えられ、その期間の積算温度は953℃から1,200℃であった。

「にこまる」:6月5日移植で収穫適期は出穂後38日以降と考えられ、その期間の積算温度は922℃以上であった。その後出穂後60日も、整粒率が70%以上あったが、出穂48日後から59日まで、降雨が続いたので、その影響があると考えられ、再度、検討する必要がある。